



県中いわて

令和6年12月1日 / 第264号

●発行／岩手県中学校長会 ●代表／小野寺哲男（盛岡市立仙北中学校） ●事務局／〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9（盛岡市勤労福祉会館2F）／電話・FAX 019(622)0572 ●ホームページ <https://www.iwate-jh-kochokai.jp/>
●印刷／杜陵高速印刷／電話019(651)2110

未来への一步を共に、黄金の國いわてから 第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会開催

《岩手大会主題》

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」

第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会が10月17日・18日、トーサイクラシックホール岩手を主会場に開催されました。全国各地から中学校長が一同に会し、全体会や分科会・全体決議などに臨み研鑽を深めました。開会式の冒頭、青海正大会会長（全日中会長）からは、「本大会の開催意義は、わたしたち校長が教育改革の当事者としてリーダーシップを発揮し、教育活動の充実に取り組み続けることを確認すること。そのためには私たち自身が『しなやかさ』と『たくましさ』を兼ね備えた校長であり続けること。『校長のしなやかさ』とは、豊かな人間性に裏付けられた包容力と、どのような状況にあっても適切かつ柔軟に物事にあたることのできる対応力であり、『校長のたくましさ』とは、豊富な経験と知見、そして教育者としての確固たる信念に基づく判断力、人の心を動かす表現力、社会の変化をいち早く的確に捉え、進むべき道を見出すことのでき



青海会長のご挨拶

る先見性です。」とご挨拶をいただきました。

続いて小野寺哲男大会実行委員長（県中会長）から、「コロナ禍を経験した私たちとしては、あたりまえではない『参集型の協議会が実施できること』について、これまで準備に携わってこられた実行委員の皆様及び、全国各地からご参集いただいた校長先生方に深く感謝を申し上げます。そして13年前、本県に甚大な被害をもたらした東日本大震災のさなかに中学生だった『あの頃の生徒たち』は、いまや20代後半の大人となり、今大会の主題でもある『新しい時代を切り拓き、よりよい社会を形成する日本人』として各方面で活躍していることと思います。今大会では『あの頃』と同じように、私たちの心の中において教育に本当に必要なものは何かを考え続けるとともに、生徒の笑顔を絶やさないようにすることが教育の責任の一つであるという認識を互いに深める再確認できる場としたい。」とご挨拶をいただきました。

今大会は天候にも恵まれました。当日は快晴の中、



分科会の様子①

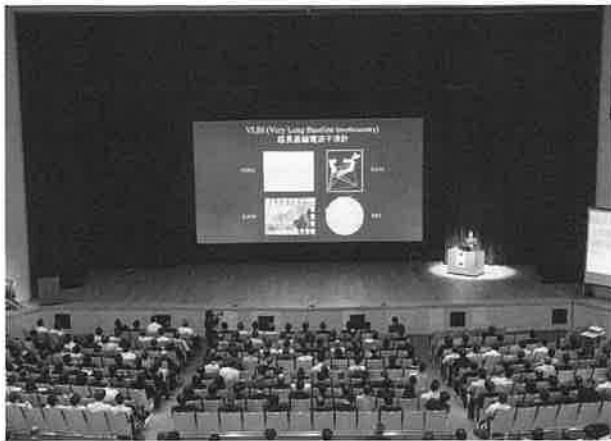


分科会の様子②

参会者の方々には盛岡の街並みを散策しながら分科会の会場まで移動していただきました。各分科会でも実に活発な意見交換が交わされ、参集型大会の意義を改めて感じさせるものとなりました。



分科会の様子③



本間氏講演会の様子

翌日に開催された国立天文台水沢VLBI観測所 所長、本間希樹氏の講演会も事後アンケートのご回答において高い評価をいただきました。全国から約1,800人の方々に参加していただいた本大会も無事終えることができました。

最後に、本県中学校の校長先生方におかれましては、大会期間中はもとより、準備の段階から多大なるご協力を頂戴いたしましたことに深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



次回開催県の香川県から

部活動地域移行

部活動の地域移行について

久慈地区 寺澤 幸昌 (久慈中)



久慈地区内には4市町村がありますが、部活動の地域移行について地区で統一した動きはとっておらず、各自治体の実情に合わせて準備を進めております。紙面の関係で、私が勤務する久慈市の状況を中心にご紹介いたします。

久慈市では令和6年6月24日に久慈市地域クラブ活動等検討協議会を設置しました。生徒にとって望ましい部活動環境の構築と、教職員の働き方改革の実現を図ることを目的としております。具体的な検討事項は3つあり、①部活動の地域クラブ活動等への段階的な移行に必要な調査に関すること ②地域クラブ活動の運営等に関すること ③その他部活動の地域クラブ活動等への段階的な移行に関し必要な事項 としています。

今年度第1回会議には、委員となった久慈市教委、

市校長会、市PTA連合会、県教職員組合県北支部久慈支会、市中体連、市中文連、市体育協会、市スポーツ推進協議会、市スポーツ少年団の各代表者13名が参加しました。冒頭、市教委より本協議会設置の経緯と部活動の現状説明があり、山積した課題(十分な指導員の確保が難しいこと、地域での部活動の受け皿団体の確保、活動場所への送迎手段等)が浮き彫りになりました。

また、部活動の地域移行に関する昨年までの取組において、保護者、児童生徒、教職員それぞれから実際の声をきちんと吸い上げてこなかったという反省も出されました。そこで、10月から小学校は5・6年生、中学生は全学年、保護者は小学生から中学生までの子どもがいる保護者全員、中学校に勤務する教職員を対象にアンケート調査を始め、部活動に関する考えや意見を集約しているところです。

まだまだ地域移行の具体像が見えてきませんが、それぞれの立場にとって納得がいき、生徒の成長に寄与できる形を目指して、協議を重ねて参りたいと存じます。

(被災地支援) 横軸連携活動

横軸連携の絆を未来へ

宮古市立田老第一中学校 校長 高橋 敦



平成23年3月11日の東日本大震災による大津波は三陸沿岸を飲み込み、私たちは多くの犠牲を強いられました。震災直後、校長会として何をすべきか検討した結果、内陸部と沿岸部を横軸で結ぶ支援体制の構築を進め、被災校に複数の内陸部支援校を割り当て、横軸連携の活動を始めました。

年度明けの4月には県中学校長会総会を開催し、横軸連携の構築とともに、会員全体の意識を共有して支援協力体制が確立されました。

当初は、学校再開までの最低限の学習環境を整えるために、募金や学用品の寄付を集め、支援校が直接被災校に届けていました。

学校が再開されてからは、日常活動でのニーズは部活動の場所や練習試合等の確保に移っていきました。そのため、県中学校長会の支援を受けながら連携校でバスを借り上げ招待交流するなど、内陸部との部活動交流がさかんに行われました。

やがて交流は、物資の支援から顔を合わせたの交流に移りました。部活動交流とともに生徒会の交流、内陸部の生徒が訪問してのボランティア活動、盛岡市内一周継走での被災校への応援など、それぞれの連携校どうして相互に心を配りながら、継続可能な連携を進めています。

本校では2年生を対象に、盛岡市内の5校と毎年

順番に交流活動を行っています。本校の生徒は、震災の被害や避難所の様子、復興状況や地域の方々の思いなどを語り伝えます。盛岡市の生徒は、各校で学んだSDGs取組や自然災害に関する地域防災などについて発表します。令和5年には城西中学校を訪問し、お互いの地域に起こりうる災害は何か、災害発生後に生き抜くためすべきことは何か、被災地域のために自分たちができることは何かについて、小グループで話し合いました。自分の考えを書いた付箋をもとに、互いに質問や意見、感想を述べ合い、自然災害に対する備えや、命を守る具体的な行動を確認することができました。本年度は下橋中学校との交流会で、津波や河川の氾濫などの災害への備えについて考えました。また、同じ合唱曲を一緒に歌い、絆を深めることができました。

こうした横軸連携をとおして、生命の尊さ、人と人とのつながり、郷土や地域を大切に思う心など、多くのことが生徒の心に深く刻まれたことと思います。また、私たち教職員にとっても、復興のために温かい心をいただいた感謝と、「いわての復興教育」にひたむきに取り組む使命と責任感を、改めて強く感じる機会となっています。これからも、明日を見て、前を向いて、未来への一歩を共に進めていきたいと思っています。



城西中学校との防災学習交流



下橋中学校との合唱交流

私の学校経営

「学ぶ楽しさに溢れる学校」



胆江地区 後藤 康（東水沢中）

校長として学校教育目標達成に向け以下の点に取り組む学校経営を進めています。

1 校長の教育理念・方針の明確化

本校では学校教育目標達成に向け「学校経営のキーワード」を設定しています。その設定にあたり校長の教育理念・方針を明確化させることで、教職員のベクトルを揃え、より合理的でスムーズな教育活動を展開することを目指しました。昨年度からキーワードを「学ぶ楽しさに溢れる学校」とし2年目になります。「学ぶ楽しさに溢れる学校」は「PLAYFUL Thinking 楽しさの中に学びがある」という理論を参考に取り組んでいます。

2 取り組みの三本柱と具体的取り組み

以下の三本柱を立て具現化しています。◎「授業」での学び - 学ぶ楽しさを実感し、教科の時間が待ち遠しくなる「授業」。◎「行事」での学び - 皆で目標に向かって取り組み、充実感、達成感を得られる「行事」。◎「仲間」との学び - 生徒会活動、部活動、学級の触れ合いの中で学校に来ることが楽しくなる「仲間」。例えば「行事」については、20代教員と生徒会担当による「プロジェクトチーム」を組織し彼らが考えたアイデアを行事にいかしています。このチームを組織したねらいは参画意識、当事者意識の醸成ですが同時に人材育成も兼ねています。

3 PDCAサイクルに沿った教育活動の推進

三本柱の取り組みを「まなびフェスト」の評価項目に反映させます。最も上位の評価項目として「学校が楽しい、居心地が良いと思う生徒 90%」を設定しキーワード達成をCheckします。昨年度の結果は89.7%でわずかに達成できませんでしたので、今年度も90%を達成目標に設定し取り組んでいます。

「学ぶ楽しさに溢れる学校」は、コロナ禍で気づかされた「学校は生徒にとって楽しく学べる居場所」という思いが始まりでした。今後も学校教育目標の達成に向け取り組んでいきたいと思えます。

私の学校経営

部活動地域移行の先にあるもの



二戸地区 岡田 幸一（九戸中）

学校への教育的ニーズが多様化し、現場が多忙化しているのは、ここ九戸村でも同様で、教員の人手不足や活力低下が問題になっていることも変わりありません。

このような状況の中、学校経営の具体として本校で力を入れているのが、部活動改革＝部活動の地域移行です。「部活動指導を望まない教師が、部活動に関わらなくて良い環境を作ること。と同時に、部活動指導を望む教師が、部活動に精一杯関わることができる環境を作ること。」この実現を目指しています。

改革の流れは、1年目：部活動の統廃合、2年目：「育成会」移行、今年3年目：「地域」移行です。少しずつですが、時間外勤務時間は減り、先生方の負担が軽くなってきたという声を聞くようになりました。けれども「ヒト・モノ・カネ」いずれもコンパクトな九戸村。今後は他市町村との地域連携が、急務だと考えています。

地域移行を進める中、私自身が少々怯えているのが、これから目の前に現れるであろう「部活動のない学校」の姿です。部活動がこれまで担ってきた教育的価値や意義を手放し、我々は何を武器に教育活動を進めていくのか。特に私の専科である体育は、「部活動のない学校」の中で、体育授業や体育教師の存在意義が強く求められてくるはずです。

部活動地域移行の一つのねらいは、先生方が心と時間にゆとりを持ち、明るく元気に生徒と向き合うことです。実現すれば、学校に活気が溢れ、教師を目指す若者が増えるかもしれません。でも一方では、新しい学校像や教師像が求められる、ある意味、怖い世界への第一歩のような気がしています。

新しい学校像や教師像。体育・スポーツで言えば、その方向性が示されたのが、もう25年も前の「総合型地域スポーツクラブ」の登場でした。が、結局ペースダウン。同じ道を歩まぬよう、本校職員そして九戸村の人たちと力を合わせ、部活動地域移行の先にある少し怖い世界へ、勇気を出して踏み込んでいこうと思っています。

各地区校長会活動 NOW

久慈地区校長会



生徒の成長と学校経営の充実に
資する共有と連携を目指して

木村 亮 (夏井中)

1 はじめに

久慈地区中学校長会は、久慈市8校、洋野町3校、野田村1校、普代村1校の計13校で構成されており、学校経営の充実や教育課題の解決のため、会員相互の連携協力と親睦を図りながら活動している。

2 本年度の活動方針

- (1) 会員相互の連携と交流を密にし、本会の充実とその活性化に努める。
- (2) 各校における保護者・地域住民の一体となった特色ある学校づくりの推進に寄与する。
- (3) 教職員の育成・強化を図るため、研究・研修の充実と各校における教育活動の活性化の推進に寄与する。
- (4) 関係機関・団体等との連携・協力を図り、

対外活動への参加のあり方の改善や高等学校との連携推進に取り組む。

3 本年度の主な活動内容

- (1) 全体研修会の実施
年間2回実施している。今年度は、各校の経営課題、久慈市中学校の適正配置、部活動地域移行の各市町村における進捗、地区陸上大会の継続等についての意見交流を行った。
- (2) 研究の推進
3班編成とし、各グループにおける共通課題の改善や学校経営の向上、充実を目指し、「校則改定の取組」「学校運営協議会の運用」「キャリア教育の推進」をテーマに研究を推進している。
- (3) 中高進路指導研修会の開催
年間2回、管内高校等6校と研修会を開催し、会場校の視察、各高校の状況や中高生の進路について情報共有している。懇親会も再開した。

4 おわりに

今後も生徒の成長や学校経営の充実のために、共有と連携を軸に様々な教育課題に対応していきながら、校長としての資質も高めていきたい。

宮古地区校長会



堅固な連帯意識を踏まえた
組織運営～宮古地区の教育
の充実・発展を目指して～

田畑 周哉 (河南中)

1 はじめに

宮古地区校長会中学校部会は、宮古市11校、山田町1校、岩泉町3校、田野畑村1校の全16校で構成されています。新任校長の割合が高いこともあり、校長会として連携・支え合いを重視し、会員相互が情報共有を密にしながら、よりよい学校経営を展開していくために活動しています。

2 本年度の活動方針

- (1) 地域を担う人づくりのための「復興教育」を推進する。
- (2) 地域課題に対応できる宮古地区校長会の組織づくりを推進する。
- (3) 創意に満ちた特色ある学校経営の充実に努める。
- (4) 専門職としての識見、力量の向上に努める。

- (5) 教育諸条件の改善に向けた取組を促進する。

3 本年度の主な活動内容

- (1) 総会・研修会・研究発表会の実施
- (2) 学校経営にかかわる研究推進
研究テーマ(2/2年次)
「学校不適応生徒を生み出さない学校経営」～自己有用感を高める取り組みを通して～
校長に求められる役割を明らかにしながら、各校における体制整備等を改善するとともに、自己有用感を高める各校の実践を交流し、新たな不適応生徒を出さないための効果的な方策について、研究と実践を進めていく。
- (3) 中学校長・高等学校長連携会議の実施
- (4) 部会研修会・情報交換会の実施
各種会議や研修会の後に、中学校部会で集まり、学校経営・各校共通課題・各種行事の実施・部活動・進路等について研修会や情報交換を行う。

4 おわりに

地区校長会の取組が、自校の学校経営や教育活動を支える貴重なものになっています。今後とも、堅固な連帯意識を踏まえた組織運営を図り、宮古地区の教育の充実・発展に向けて尽力していきます。

「令和5年度における生徒指導の諸課題に係る調査」の概要

1 生徒の問題行動の状況（143校回答）

令和5年度に「問題行動がなかった」と回答した学校は76校。減少したが困り感を抱えている学校は多い。「対教師への問題行動」の人数は88人。具体的には「授業を妨害する」「暴力を振るう」の割合が前年度から増加した。あわせて「対生徒への問題行動」の人数も568人と2年連続で増加した。「怠学等の問題行動生徒数」は、423人（前年比1.8倍）となり、女子の怠学が3年連続で増加、男子を上回った。「一般的非行」は220人。「喫煙」「外泊」「家出」「性的いたづら」が増加している。

2 いじめ問題の状況

令和元年度から減少していた認知件数が1,185件と増加。いじめの解決率は学年が上がるにつれて低下する傾向にあり、令和5年度の解決率は86%と前年度より4%低下した。いじめの態様は「ひやかし、からかい」が多く「ネットSNS」によるいじめは、過去5年間で最も多い結果となった。

3 不登校の状況

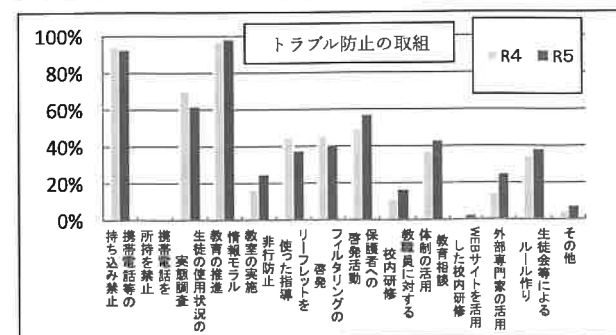
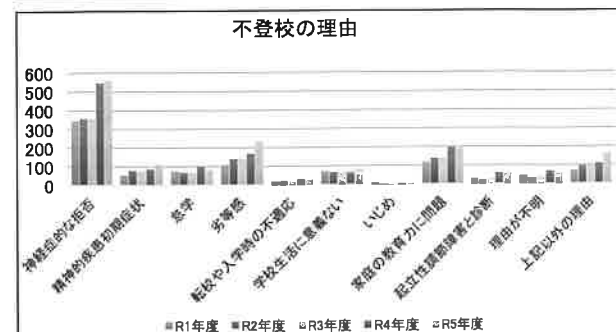
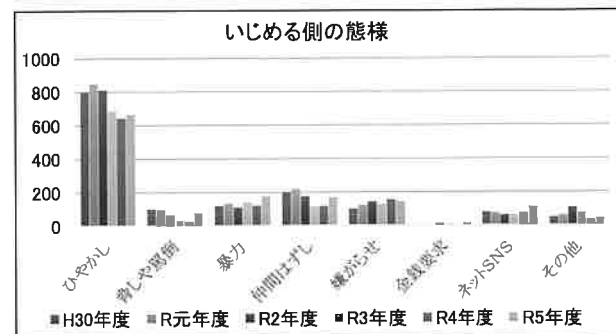
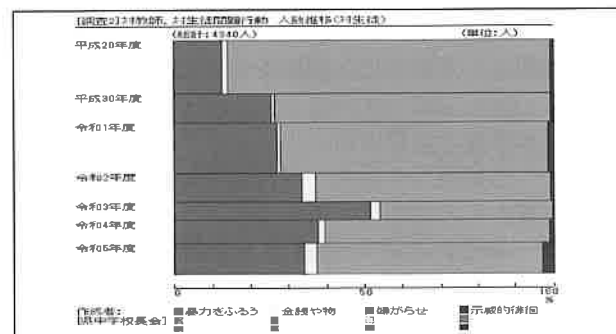
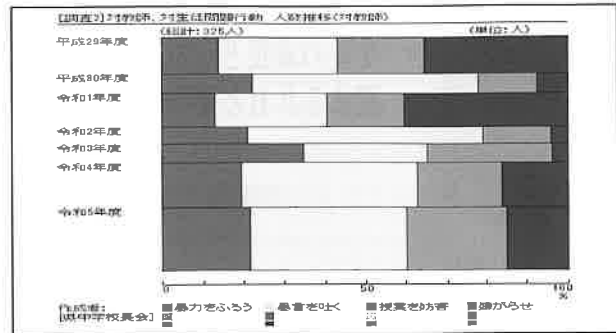
不登校生徒数は1,589人で、令和5年度以降増加傾向。理由は、「神経症的な拒否」「精神的疾患の初期」などの心の不調の要因が全体の約半数。200日以上欠席の不登校生徒（79人）のほとんどは小学校から継続（75人）。中学校入学後の回復は非常に難しい状況にある。また、欠席日数が長くなるにつれて回復率が低下しているため、初期段階での効果的な対応が求められる。

4 情報機器の利用

「ネット上の書き込み」に関わるトラブルが増加、県内半数以上の学校で発生するなど大きな課題となっている。LINEやXに関わるトラブルが減少しているものの、新たなツール（アプリ等）が使われるようになってきていることが窺える。

5 児童虐待・クレーマー等

児童虐待があった学校は20校弱。虐待の疑いがある場合は躊躇せず児童相談所等に通告する対応が必要。また保護者によるクレーム対応に困っている学校は増加、24校が理不尽な要求に困っていた。



県中体連の活動

岩手県中学校体育連盟 会長 照井 大道（下小路中）



「部活動地域移行」の流れの中、「地域クラブ団体」の本連盟主催大会への参加を認めて2年目となりました。

今年度は、一定の基準を満たす地域クラブ団体等11競技53団体（昨年度9競技21団体）を承認しました。また、昨年度までの県中総体に加え、今年度からは新人大会へも参加対象を広げ開催しました。

第71回（岩手県中学校体育連盟創立60周年記念大会）となる今年の県中総体は、7月13日～15日を主会期に、12市町を会場として学校数138校、地域スポーツクラブ団体28チーム、計6,301名が参加しました。中央開会式は、選手、来賓、役員、補助員合わせ、約800人の参加のもと盛岡市立太田ソフトテニスコートにて行いました。昨年度は大雨予想により中止としたため2年ぶりの開催となりましたが、ここ数年のコロナ禍の影響もあり、全地区の選手が参加しての中央開会式は実に5年ぶりとなりました。大会期間中は天候にも恵まれ、会期内で無事大会を終えることができました。大会運営に携わっていただいた地区中体連、各競技専門部の献身的な運営、ご支援ご協力を賜った関係各位に心より感謝申し上げます。

夏の東北大会は、本県では盛岡市においてソフトテニス競技1種目を開催しました。東北各地で行われた本県選手全体の成績は、団体・個人の優勝数15種目（団体6、個人9）という活躍でした。

北信越ブロックで開催された全国大会では、準優勝に陸上男子400m館脇光さん（東朋）、第3位に陸上男子3000m小原健太郎さん（和賀西）、柔道女子福田乙葉さん（仙北）、第5位にホッケー男子の岩手U15ホッケークラブと、3競技4種目での入賞がありました。これらの成果は、本人の努力とともに、顧問やコーチ、県競技専門部や競技団体の指導強化の賜物であり、そのご尽力に敬意を表するものがあります。今後開催される全国駅伝大会や冬季競技種

目においても、その活躍が大いに期待されるところです。

なお、石川県能登町で開催予定であったソフトテニス競技は、今年1月に発生した能登半島地震による甚大な被害の影響のため開催が危ぶまれましたが、会場を金沢市に変更して開催にこぎつけていただきました。復興に向け大変な状況にある中、中学生の晴れ舞台を懸命に準備していただいた、石川県をはじめ北信越ブロック関係者の皆様のご努力に対して深甚なる敬意を表したいと思います。

終わりに、中体連のあゆみが令和の時代へと進んだ今、中体連は大きな過渡期を迎えております。教育活動の一環として部活動の人間形成に資する意義は認識されているものの、社会情勢の変化に対応すべく、様々な変革が求められています。「急激な少子化に伴う大会運営の在り方や財源確保」「地域クラブ団体等に所属する生徒の大会参加機会の確保」「働き方改革に伴う教育現場の多忙化解消」など、多くの課題がありますが、本県の実情に沿った望ましい運動部活動となるよう、また、未来に向かって「持続可能な中体連の運営」となるよう、今後も県中学校長会や各地区中体連、県教育委員会や各競技団体など関係機関の皆様のご意見も伺いながら、慎重にその在り方について探ってまいります。



令和6年度 総合体育大会中央開会式
（ソフトテニス競技）



県中いわて

令和6年12月1日 / 第264号

●発行／岩手県中学校長会 ●代表／小野寺哲男（盛岡市立仙北中学校） ●事務局／〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9（盛岡市勤労福祉会館2F）／電話・FAX 019(622)0572 ●ホームページ <https://www.iwate-jh-kochokai.jp/>
●印刷／杜陵高速印刷／電話019(651)2110

未来への一步を共に、黄金の國いわてから 第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会開催

《岩手大会主題》

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」

第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会が10月17日・18日、トーサイクラシックホール岩手を主会場に開催されました。全国各地から中学校長が一同に会し、全体会や分科会・全体決議などに臨み研鑽を深めました。開会式の冒頭、青海正大会会長（全日中会長）からは、「本大会の開催意義は、わたしたち校長が教育改革の当事者としてリーダーシップを発揮し、教育活動の充実に取り組み続けることを確認すること。そのためには私たち自身が『しなやかさ』と『たくましさ』を兼ね備えた校長であり続けること。『校長のしなやかさ』とは、豊かな人間性に裏付けられた包容力と、どのような状況にあっても適切かつ柔軟に物事にあたることのできる対応力であり、『校長のたくましさ』とは、豊富な経験と知見、そして教育者としての確固たる信念に基づく判断力、人の心を動かす表現力、社会の変化をいち早く的確に捉え、進むべき道を見出すことのでき



青海会長のご挨拶

る先見性です。」とご挨拶をいただきました。

続いて小野寺哲男大会実行委員長（県中会長）から、「コロナ禍を経験した私たちとしては、あたりまえではない『参集型の協議会が実施できること』について、これまで準備に携わってこられた実行委員の皆様及び、全国各地からご参集いただいた校長先生方に深く感謝を申し上げます。そして13年前、本県に甚大な被害をもたらした東日本大震災のさなかに中学生だった『あの頃の生徒たち』は、いまや20代後半の大人となり、今大会の主題でもある『新しい時代を切り拓き、よりよい社会を形成する日本人』として各方面で活躍していることと思います。今大会では『あの頃』と同じように、私たちの心の中において教育に本当に必要なものは何かを考え続けるとともに、生徒の笑顔を絶やさないようにすることが教育の責任の一つであるという認識を互いに深める再確認できる場としたい。」とご挨拶をいただきました。

今大会は天候にも恵まれました。当日は快晴の中、



分科会の様子①



分科会の様子②